

「国際豆年」の制定について

雑穀輸入協議会

去る2013年12月20日、国連総会において2016年を国際豆年（International Year of Pulses）に制定する案件が採択されましたので、その概要について紹介いたします。

国際豆年は、国際的な豆類の団体であるシシルズ（国際豆類貿易産業連合（CICILS : Confederation Internationale du Commerce et des Industries des Legumes Secs）、本部＝ドバイ（アラブ首長国連邦）、ハカン会長（Mr. Hakan Bahceci））が、豆の優れた特性である①健康に必要な栄養素の保持と食品分野における技術革新の可能性、②環境と調和した持続可能な農業の実現、③生産性の面からの食糧安全保障の確立等について世界的に普及啓発するため、2年前から国際連合食糧農業機関（FAO）に働き掛けてきた運動が結実したものです。

1 制定の経緯

- 2012年： シシルズが2016年を国際豆年とする決議案を準備
- 2013年6月： トルコ、パキスタンが共同で、FAOに決議案を提案
- 2013年11月： アルゼンチン、アゼルバイジャン、ドミニカ共和国、エチオピア、ニジェール、スリランカ、トルコ、ウクライナの8カ国が提案国に追加参加し、国連総会第2委員会（経済金融）に新たな決議案を提案
- 2013年12月12日： 国連総会第2委員会において同決議案を採択
- 2013年12月20日： 国連総会第2委員会から国連総会に同決議案が上程され採択

2 決議の骨子

- (1) 2016年を国際豆年（International Year of Pulses）とすることを決定
- (2) FAOに対し、各国政府、関係機関、非政府組織及び全ての利害関係者（relevant stakeholders）と共同して国際豆年の実施を促進するよう勧奨
- (3) この決議の実施により生ずる全ての活動は、任意の自発的財源（voluntary resources）により購われるべきことを強調
- (4) 全ての利害関係者に対し、国際豆年への寄附（voluntary contributions）及びその他の形態による支援を勧奨

3 活動内容とそのスケジュール

活動の中心母体であるシシルズでは、参加各国に次の項目を中心に活動を展開するよう呼び掛けており、2016年に向けての現段階での活動のスケジュールは以下のとおりです。

(1) 健康に必要な栄養素の保持と食品分野における技術革新の可能性

2014年 豆類技術革新共同 (PIP) ビジネスプランの提起

2015年 国際豆類健康・栄養研究シンポジウムの開催

PIPによる製品開発事業の実施

2016年 研究シンポジウムの成果報告書の公表

研究戦略の提案

PIPによる新開発食品の発表

(2) 環境と調和した持続可能な農業の実現

2014年 農業の持続性に関する国際会議

2015年 豆類の世界農業の持続性への貢献に関するシンポジウムの開催

国際土壌年との連携活動等

2016年 持続可能な農業に関する報告書の刊行

シンポジウムの成果報告書の公表

(3) 生産性の面からの食糧安全保障の確立

2014年 国際食用豆類協議会における戦略セッションの開催

食糧安全保障問題の解決方策としての豆類に関する報告

2015年 国際食用豆類協議会で成果報告書の公表

2016年 育種及び農法に関する国際シンポジウムの開催

豆類及び食糧安全保障に関する国際シンポジウムの開催

(参考) 過去の国際年の例

指定年	国際年の名称	主な活動内容等
2004年	国際コメ年	FAOにおける国際コメ会議「世界市場と持続的な生産システムにおける米」の開催、IRRI (国際稲研究所) 主催の各種シンポジウムの開催等
2008年	国際ポテト年	世界食料デー・国際イモ年シンポジウム「イモを通じて食料問題を考える」開催、CIP (国際馬鈴薯センター) 主催のシンポジウムの開催等
2011年	国際森林年	国連における国際森林年キックオフ記念式典開催、「2011 国際森林年」記念切手の発行、世界各地での植樹祭等の実施
2012年	国際協同組合同年	国連総会で国際協同組合同年の開始イベント実施、国連本部で「起業を通じた若者の雇用：協同組合の役割」等各種のパネルディスカッションやフォーラムを開催
2013年	国際キヌア年	国連総会で国際キヌア年の開始イベント実施、国際キヌア年エキスポ2013「数千年前に種蒔かれた未来」の開催等